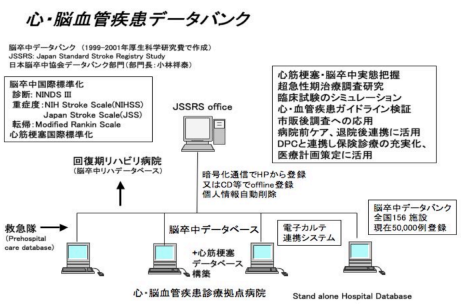
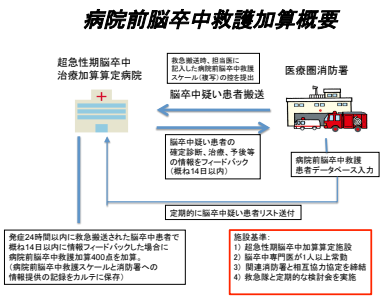
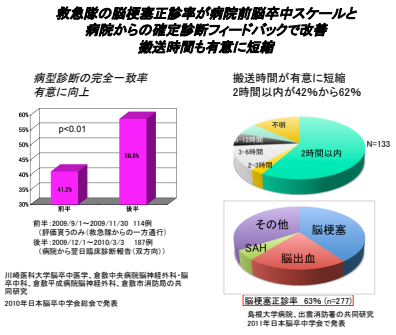
厚労科研小林班の分かりやすい報告まとめ

急性期脳卒中データバンクは 2002 年に構築以来、全国 193 施設で 8 万例以上のデータを蓄積し、解析結果を脳卒中データバンクとして刊行しています。本研究では心筋梗塞データベース作成も加え、さらに救急隊による脳卒中病院前診断データベースを構築し、リハビリテーション学会データバンク、地域連携パスも連携させてシームレスな治療のためのエビデンス作成に貢献することを目的としています。日本の脳卒中診断指標の標準化を実現し急性期の実態を明らかにしてきましたが、今回の病院前診断研究では救急隊に正確な診断をフィードバックすることで診断率が有意に向上し、搬送時間が短縮することを明らかにし、t-PA 治療適応例を増やせる可能性を明らかにしました。これを普及するために診療報酬加算を要望します。このような脳卒中発症時から入院、リハビリ、在宅医療までの一連のデータベース化研究は本研究が初めてであります。DPC データ取り込み実験も成功したので、今後は医療経済的問題についても検討出来るシステムを加えて医療保険の適正化のためのエビデンスも出していきたいと思います。